

データマネジメント基盤構築の ための技法の研究 ーデータマネジメント基盤構築の プロセス明確化によるデータ利活用促進ー アブストラクト

昨今のデジタル技術の進歩により、様々な業界・業種において最新のテクノロジーを活用した新サービスの創出や業務効率化の動きが活発化している。一方で、データ利活用には複数の課題が存在しており、データ利活用を促進させるには、これら複数の課題を解決していかなければならないと考え、本分科会では、「なぜデータ利活用が進まないのか」という問いを設けた。

データ利活用を実現するまでのプロセスで発生している問題とその解決策を探ることで、データ利活用におけるボトルネックの解消に繋げるための研究を行った。結果、データ利活用のプロセス（企画段階、構築・実装段階、運用段階）の内、特に「企画段階」に問題が集中していることが分かり、本分科会では「企画段階」で発生する問題と解決策を仮説として立案・検証することとした。

問題と解決策を仮説立て、本分科会参加企業のデータ利活用を行っている人たちへのアンケートを行った。アンケートの結果、「データが散在している」、「課題を把握できていない」、「課題を社内で共有できていない」は多くの企業で共通の問題となっていることが分かり、データモデリングを行いカタログ化等によるデータ管理を行う、業務フローからの課題抽出を行いシステム部門と業務部門の横断チームで対応していく等の対策が有効であることを確認した。

アンケートの結果を元に当分科会で作成したガイドラインを使用し、実際のプロジェクトにて「企画段階」の課題施策検討段階に適用してみた結果、施策の整理ができ、施策の有効性が検討できた。その結果、課題の早期解決につながり、一定の効果が見られたことからガイドラインの有用性が証明され、データ利活用を促進に繋がったと言える。

当分科会として、このガイドラインを使い自社のデータ利活用を妨げている問題を解決し、データ利活用を促進して貰えることを強く期待する。